

## 【2022年 新年挨拶】

代表理事：連健夫

JCAABE 会員の皆様、明けましておめでとうございます。当団体は良質な建築、美しいまちづくりを目指し、設立5年目となり会員数も120名を越えました。当団体の認知も拡がり、様々なところからご依頼、ご相談をいただくようになってきました。



文部科学省の2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」（地域課題解決実践カリキュラム）で、当団体の「まちづくりファシリテーター養成講座事業」が採択され、2年間の実施期間を経て、昨年度からは3校の実施、今年度は更に2校が新規実施されます。この講座はすべて認定まちづくり適正建築士が講師を務めるという枠組の中、会員のご協力を得て教育の質を担保して行われております。

この事業の成果物をもとに、学芸出版社から出版した「建築系のためのまちづくり入門」はJCAABEの会員によって執筆された共著です。評判も良く書店でも平置きされている状況です。多くの建築士・建築家・学生に読んでいただきたいと思っています。お知り合いの方にご紹介いただければありがたく存じます。



文化庁、令和3年度緊急的文化遺産保護国際事業（専門家交流）実施委託業務「カイロ旧市街の持続可能な保護策のための事業／住民参加のまちづくり」を実施中ですが、これは、日本学術振興会カイロ研究連絡センターの深見奈緒子博士からお声掛けいただき JCAABE が受託契約者として実施している事業です。オンラインで繋ぎ、エジプトの建築家がファシリテーターを務め、住民参加のワークショップが実施されます。



コロナ禍の中、人の繋がりの方が再認識されると共に、オンラインの新たな技術が広がる中、建築・まちづくりにおいても変化が求められています。SDGs やカーボンニュートラル、人新世の資本論などの課題に対して、先をどのように見て対応していくのか、が問われています。その意味で、第三者の立場で良質な建築、美しいまちづくりを進めるべく、認定まちづくり適正建築士、ADR 調停人のネットワークの輪を広げることが大切になってくると考えています。

次回の認定まちづくり適正建築士セミナーが3月5日6日に実施されます、建築・まちづくりに興味のある建築家、建築士にお声かけいただければ幸いです。コロナの状況によりませんが、3月6日17:30~19:30に対面での懇親会を予定しております。まちづくりは横のネットワークが大切です。是非、ご参加いただき、情報交換、交流をしていただければと存じます。

この一年、皆様にとって意味ある年になることを心から願い、新年のご挨拶とさせていただきます。